

平成 22 年度第 1 回日本海海況予報

1. 今後の見通し(2010年4月～6月)

- (1) 隠岐諸島西方の暖水域は、ほぼ停滞する。隠岐諸島北東の暖水域は、東に移動して能登半島に接近する。能登半島北方の暖水域は、東に移動して柏崎沖、佐渡島北東の暖水域と合流し佐渡島周辺に分布する。男鹿半島西方の暖水域は弱体化する。
- (2) 島根沖、山陰・若狭沖、佐渡島沖、入道埼沖の各冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。

2. 経過(2009年11月～2010年2月)

- (1) 11月に隠岐諸島北東にみられた暖水域は、2月に2つに分離し隠岐諸島北東と能登半島北方に停滞。11月に佐渡島北東にみられた暖水域は、2月に佐渡島から津軽半島の沿岸に拡大。11月に男鹿半島西方にみられた暖水域は、ほぼ停滞。2月に島根沖、上越沖で暖水域の形成を確認。
- (2) 島根沖と山陰・若狭沖の冷水域は、規模及び接岸状況ともに平年並み。佐渡島沖の冷水域は、規模は平年並みでかなり接岸。入道埼沖の冷水域は、規模はやや小さく接岸距離は平年並み(11月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
11月：沖合域を中心にほぼ全域で“やや高め”～“かなり高め”、男鹿半島沖で“平年並み”～“やや低め”。
12月：島根沖と津軽半島西方で“かなり高め”、それ以外は概ね“やや高め”～“平年並み”。
2月：島根沖から丹後半島にかけて及び能登半島周辺で“やや低め”、男鹿半島沖で“はなはだ低め”。それ以外は概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部は“やや高め”、北部は“平年並み”(11月)。

3. 現況(2010年3月)

- (1) 暖水域は、隠岐諸島西方、隠岐諸島北東、能登半島北方、柏崎沖、佐渡島北東、男鹿半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模はかなり小さく接岸状況は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模はやや小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、規模はやや小さく接岸状況は平年並み。入道埼沖の冷水域は、規模はやや小さくやや接岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、日本海西部の沿岸付近で“やや低め”、佐渡島北西沖合で“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平均並み”。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

”はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ

”かなり高め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ

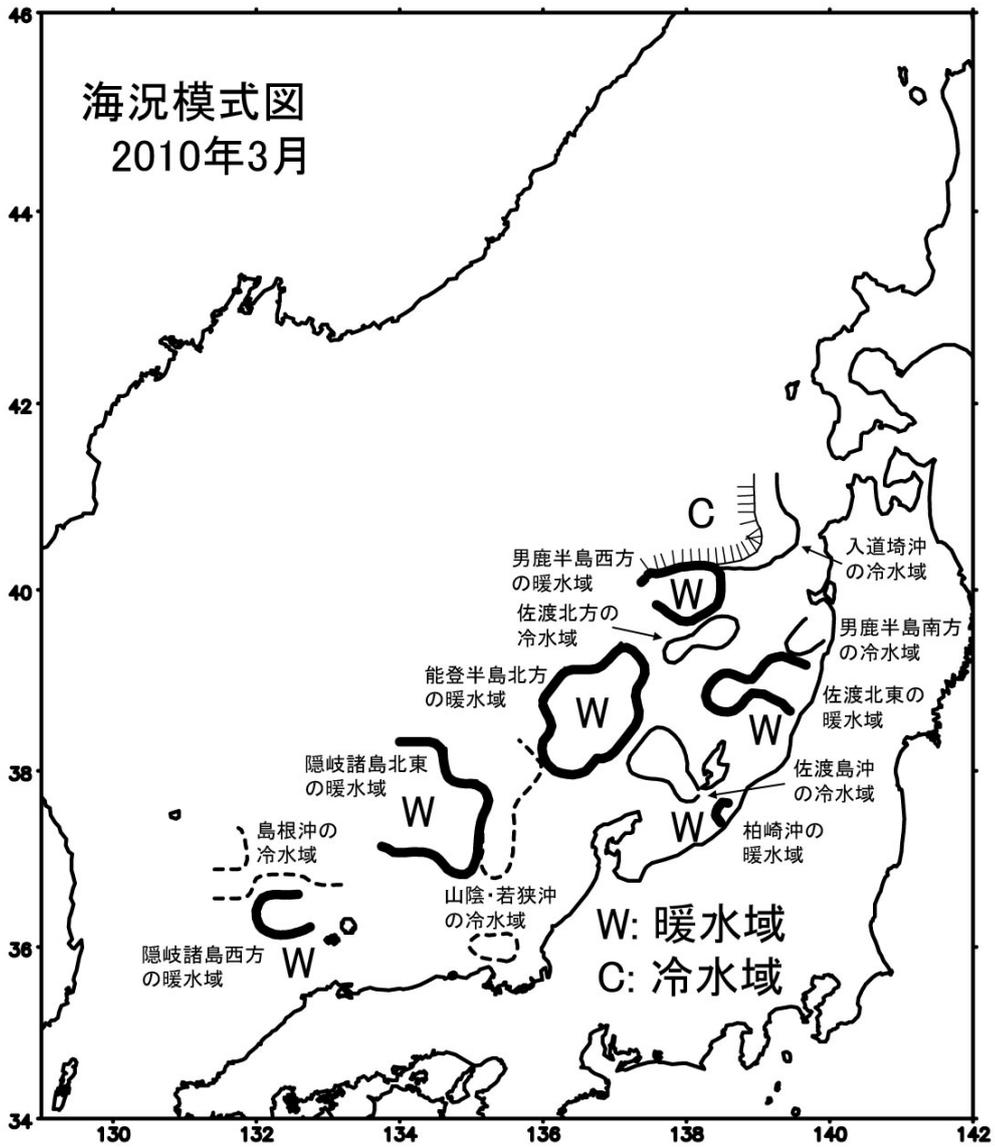
”やや高め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ

”平年並み”：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

”やや低め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ

”かなり低め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ

”はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2010年3月の海況模式図

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	京都府農林水産技術センター 海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立 農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所